

世界の女の子に、生きていく力を。



Because I am a Girl

THE STATE OF THE WORLD'S GIRLS 2009

Girls in the Global Economy : Adding It All Up

世界ガールズ白書 2009 年版 サマリー

女の子と世界経済

「女の子への投資は正しい行いだ。それに、賢明な行いでもある」

ヌゴジ・オコンジョ＝イウェアラ 世界銀行専務理事

世界金融危機はすべての家族やコミュニティに重くのしかかっている。資金が枯渇すると、一番影響を受けるのは女の子と若い女性である。

現在の金融危機のために、2009 年だけで5万人のアフリカ人の赤ちゃんが1歳の誕生日を迎えることなく命を落とすと推定されている（注1）。そしてそのほとんどが女の子だ。

しかし、苦しんでいるのは赤ちゃんだけではない。親が失業や収入の減少に直面する中で、幼い女の子たちが学校を辞めさせられ、家族のために収入を得るべく働かされている。金融危機の影響が見落とされ続けられれば、世界経済の発展と女の子の人権は、何十年も後戻りすることを余儀なくされるのだ。

しかし、現在の危機が起こる前からすでに、多くの女の子や若い女性が厳しく不安な未来を抱えていた。日雇い労働者として衣類や電子部品の工場で長時間働いており、経済が不況になると、真っ先に失業の憂き目に遭うのだ。何千人もの若い女性が、売春やその他の危険な仕事をせざるを得なくなる。

これは若い女性一人一人にとって悲劇であると同時に、困窮する経済にとっても悲劇である。こうした国々は女の子と若い女性への投資ができないばかりに、毎年何十億ドルも失っているのだ。

開発途上国には、次世代の経済的および社会的発展に重要な役割を果たすことができる、また果たすべき思春期の女の子と若い女性が5億人以上いる（注2）。だが、その多くが教

育や有意義な経済的活動に接する機会を与えられていない。

それでも、女の子への投資は成長と発展を意味し、女の子への投資不足と経済成長不振の間には明確な関連性があるのだ。

世界経済における女の子——役割と影響

プランの「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009 年」は、女の子と若い女性が経済成長の中で果たす重要な役割と、彼女らの未来に投資しないことによって失われる機会についての新たな分析を行った。多くの女の子が生まれたときから厳しい困難に直面している中で、この白書は、より豊かで公平な社会をもたらしてくれる、女の子のための教育と有意義な職業機会への早期の投資を呼びかけている。女の子への投資は、全員の利益にかなうことなのだ。

「私が特に関心を寄せているのは、女性と女の子たちの窮状です。彼女たちは世界中の『不健康で、学校に行けず、食事も与えられず、賃金も支払われない人口』の大半を占めているのです。世界の人口の半分である女性と女の子が経済的、政治的、法的、社会的疎外を強いられているとすれば、民主主義と繁栄を推し進めようというわたしたちの希望は深刻な危機を脱することができないままになります」

ヒラリー・ローダム・クリントン（注3）

世界的不況の直接的影響

- ・ 輸出関連分野で非正規雇用されている数百万人の若い女性が真っ先に失業する
- ・ 送金（海外にいる労働者から故郷への仕送り）や出稼ぎが減少する
- ・ マイクロファイナンスやその他のプロジェクトへの融資が制限される
- ・ さらに多くの女の子たちが児童労働に巻き込まれるようになる
- ・ 女の子が学校を辞めさせられ、家事やその他の仕事をさせられる
- ・ 乳児死亡率が増加する——その大半が女の子である
- ・ さらに多くの女の子と女性が売春を強いられる

女の子へ投資しないことによる長期的影響

- ・ 毎年、地元経済にとって多大な損失が発生する
- ・ それまで実現されてきた女の子の権利が停滞・退行する

首切りに直面する

多国籍企業と民間サービス部門の急速な拡大はこれまで以上に女性が雇用されていることを意味するが、それでもなお、彼女たちの経済力の向上は十分に達成されていない。グローバル化は多くの場合、非公式経済における女性を含む貧困層の経済環境を悪化させる結果をもたらしている（注4）。

開発途上国の女性労働者のうち 60%以上が、農業以外の分野で非正規雇用されているというデータがある。農業に従事する女性の数が加わると、この割合はさらに高くなる（注5）。非正規雇用されている労働者のほとんどは若い女性で、家事や単価の安い内職を含む不安定な仕事に就いている。衣類や玩具、電子部品の工場で過酷な環境のもと、低賃金で、あるいは臨時雇用で長時間働く者が多い。彼女たちはその日暮らしの生活を強いられ、そのために経済的・社会的変化の影響を受けやすくなっているのだ。

労働市場の慣例として、若い女性労働者はしばしば流動的な労働力の一部とみなされ、景気後退の際には簡単に切り捨てられる。このことは企業や国にとっては景気後退からの回復力となるが、不安定で不確実な暮らしを強いられている家庭にかかる社会的代償は大きい。彼女たちの収入は、子どもを学校に行かせたり健康を維持したりするなど、家族を支える上で必要不可欠なのだ。

多くの開発途上国で、現在の経済危機は、今まさに労働市場に入ろうとしている若い女性に悪影響を与えている。正規雇用においても、稼ぎ手として大した価値はないとみなされがちな女性は、多くの場合、真っ先に解雇される。

正規雇用であっても、金融危機の影響で解雇される労働者の 10 人に 7 人が女性である、とフィリピンの全国女性連合「ガブリエラ」は伝えている（注6）。

故郷への仕送り

何百万人もの女性が母国を出て、外国で働いている。出稼ぎ労働者の少なくとも半数は女性だ（注7）。多くの場合、若い女性は出稼ぎをチャンスと見ているが、搾取されやすい仕事に就く可能性もある。農業や重工業、家事手伝い、観光、娯楽産業などだ。彼女たちは何百万ドルもの金を故郷の家族に仕送りする。その仕送りは食品、衣類、教育、医療に費やされ、地元経済に貢献している。

しかし、金融危機に伴い、こうした若い女性の大多数が賃金を減らされたり仕事を解雇されたりして故郷に戻っている。世界銀行は、開発途上国への送金は 2009 年には 7.3%減少すると見ている（注8）。

送金の減少は、国の経済に影響をおよぼす。フィリピンでは外国からの送金が国内総生産（GDP）に多大な貢献をしている。2007 年には、人口のおよそ 10%を占める出稼ぎ住労働者たちが故郷に 145 億米ドルを送金していた（注9）。

フィリピン人移住労働者の権利同盟「ミグランテ・インターナショナル」のコニー・ブラ

ガス＝レガラドは、香港やシンガポールで働く若い女性の多くが、余剰人員解雇の危機に瀕していると言う。

「特に懸念されるのは家事労働者や小間使い、その他の契約労働者です。経済危機で雇用主が仕事を失ったり、商売に影響が出たりすれば、彼らは故郷に帰されたり、賃金の引き下げを強いられる可能性があります。移住労働者が故郷の家族に仕送りできなければ、それもまた社会的問題に発展する可能性があります」（注 10）

ブラガス＝レガラドはこうした事実を、自分自身が香港で 13 年間メイドとして働いた経験から知っている。「1997 年にアジア通貨危機が起きたとき……膨大な量の仕事がなくなりました。今回の金融危機は世界的規模で起こっていて、あのときと同じ傾向が見られます」（注 11）

学校を離れて——就業へ

国際労働機関（ILO）の推定によると、児童労働に携わる子どもの数は一貫して減少を続けているが、現在の金融危機がこの進展を損なう恐れがある。

国の教育予算の削減、そして国外出稼ぎ労働者からの仕送り—それは子どもを学校に通わせ続けるための支えとなる場合が多い—の減少は、働く子どもの数を増加させる可能性がある。最近の推定では、世界中で 1 億人以上の女の子が児童労働に携わっており（注 12）、農業や家事手伝いなどに従事しているとのことだ。

ILO は、16 歳未満の女の子が働くのは、他のどの職種よりも家事労働者としての場合が多いと見ている（注 13）。通常、家事は「安全な」雇用形態とみなされがちだが、実際には身体的・心理的・性的暴力など、幅広い虐待や搾取が隠されている。主に若い女性と女の子から成る 1 億人以上の人々が、このもっとも規制されておらず、守られていない業種で働いていると推定されるのだ（注 14）。

プランによる調査——女の子が生まれたときから直面する厳しい困難

プラン・イギリスは、調査「‘Real Choices, Real Lives’ ～本当の選択、本当の人生～」を 2007 年に開始し、142 人の女の子たちを、生後すぐからミレニアム開発目標が達成されるべき 2015 年の 9 回目の誕生日まで追跡している。

彼女たちの物語は、娘が成長するにつれて家族が迫られる判断や、女の子が生後すぐから直面する深刻な問題を浮き彫りにするものである。この調査はブラジル、エルサルバドル、ドミニカ共和国、ベナン、トーゴ、ウガンダ、カンボジア、フィリピン、ベトナムの 9 カ国に暮らす女の子たちの暮らしを追っている。今年は、現在の経済危機に加えて食料や燃料の不足のために、貧しい家族がますます貧困に陥っている現状が明らかになった。家庭で学費や制服、さらには食事の費用を捻出できなくなった場合、女の子に学校をやめさせ

るという圧力は非常に強いものとなりうる。

経済的な困難に直面していてもなお、女の子たちの家族は、世界中どこの親もそうであるように、子どもには高い望みを抱いている。どの親も、娘に大きな期待を寄せており、娘が能力を存分に発揮できるように、教育に投資する意思を持っている。半数以上の親が娘には助産師や看護師、教員など、専門教育と訓練を要する職業についてほしいと考えているのだ。

カンボジアに住むソキアの母親が、多くの親の意見を代弁している。「この子には私たちのようにはなってほしくないのです」と言い、彼女は小さく笑った。「この子が看護師になって家族を助けてくれたら最高ですけど、あまり期待はしていません」

ソキアの母親が希望を持たずにいるという事実、我々は目を向けなければならない。ソキアの未来は、我々全員にかかっているのだ。

世界経済の中の女の子——タチアナとアシュリンの場合

エルサルバドルのタチアナは、2歳半になる。タチアナは母親のナタリーと一緒に暮らしていたが、父親のヴィセンテは娘が生まれてからほとんどの時間をアメリカで過ごしている。2009年2月に調査員がこの家族を訪問した際、タチアナの人生が大きく変わったことに気づいた。母親のナタリーまでもがアメリカに移住してしまったのだ。現在、タチアナの面倒は祖父母が見ている。

3歳のアシュリンも、祖父母と暮らしている。彼女の母親はイタリアに、父親はアメリカに住んでいるのだ。この若い家族を見れば、出稼ぎがもたらす困難がよく分かる。母親はイタリアで職を失い、アシュリンの祖父母への仕送りをすることができずにいる。アシュリンの父親は、祖父母がアシュリンのためのミルクを何とか買えるだけの金額を送金している。エルサルバドルでは、ミルク代は週30ドル程度の出費だが、父親からの仕送りが、アシュリンの食生活を支えている。

世界がますますつながりを深めていく中で、こうした職探しの移動は増えるものと思われる。実際、調査員は出稼ぎが女性に広がっていることを報告している。プランの「Because I am a Girl 世界ガールズ白書2009年」が示すように、出稼ぎ労働者、特に家事労働者として国外へ職を求めて出国する女の子と若い女性のための法的保護が不十分な状況では、職場環境を改善するためのさらなる法的保護措置が必要となってくる。

「率直に言います。女性にとって、特にわたしたちのような若い女性にとって、ここでは上司と性的関係を持たずに仕事を手に入れるのは難しいのです」

ロザリン、輸出品加工区の裁縫師、ケニア（注20）

絶望的な時代、最悪の手段

若い女性が現在の金融危機により支払う代償は大きい。1997年のアジア通貨危機では、職を失った多くの女性が売春やコンパニオンなどの性産業の職に就くことを余儀なくされた。ジャカルタ（インドネシア）だけでも、通貨危機直後の1年間で、性産業で職を得た女性の数は2倍から4倍にのぼったとみられている（注15）。また、金融危機が起こると、切羽詰まって娘を性産業に売る家庭が増えることもわかっている。毎年、100万人以上の子どもが売春を強いられたり、性的な目的で売られたりしているのだ（注16）。

職場におけるセクハラもまた、増える傾向にある。フィリピンにある女性のための研究機関「女性資料センター」の調査によれば、職を失うまいと必死になった女性が雇用・解雇の権限を持つ人間からの性的な誘いかけに応じる可能性が上がることもあるとされる。（注17）。

金融危機が起こる前から、女性はしばしば、職を守るためにセクハラに耐えなければならなかった。2007年にケニアで実施された人権および事業に関するリスク評価によると、輸出品加工区で働く女性の90%以上が職場でのセクハラを経験あるいは目撃している。ケニアでは輸出品加工区で4万人以上が雇用されており、国の輸出品のおよそ10%を生産している（注18）。

ジャクリーンは、ケニアの輸出品加工区で働く日雇い労働者だ。上司は、彼女の愛人でもある。ジャクリーンいわく、「あなたの採用担当者とは別に、実際の職場での監督者や契約を更新する人間もいます。そういう人たちみんなを満足させなければいけなくて、しかもみんなただあなたと寝たがっているだけなのです」（注19）

「将来は、ホテルや観光業で働いてエジプトの観光産業に役立てるようになって、観光業を強化して国民所得を増やしたいです。そして、私の未来については、自分が成功して仕事をものすごくうまくできていると思えるまでがんばり続けます」

バスマ、13歳、エジプト

失われた機会

自国の著しい経済成長の機会を見逃している国が多くある。プランの「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009 年」は OECD 統計を分析し、教育を受けている女の子の数が低い国ほど、人間開発順位の下位に位置していることを示している。

教育を受ける期間が1年延びるごとに、女の子の収入は10~20%増加し（注 21）、貧困の連鎖を断ち切る道筋への大きな一歩となる。女の子が教育を受けるということは彼女たち自身だけでなくその子どもたちがさらに良い人生を歩むチャンスが生まれ、コミュニティのさらなる繁栄、優れた人材、そして豊かな国へと発展するチャンスが生まれるということである。

だが、女の子の人生のあらゆる段階で、より多くの対策を講じなければならない。開発途上国の24歳未満を見ると、労働人口は女性よりも男性のほうが多い。その差がもっとも大きいのは南アジアで、労働人口の82%が男性なのに対して女性はたったの27%にとどまる（注 22）。

女性が仕事に就き、労働人口の重要な一部を成すようにすることで、家族は貧困を脱し、子どもは教育を受け、それが経済成長につながる事となる。

インドや東南アジアなどの新興市場では、中等教育を受けた若い女性は銀行や保険などの拡大しつつあるサービス分野で、特にコールセンターの人員として重要な人材となっている。

ナイキ財団が実施した調査によると、若年妊娠はケニアの経済に毎年5億米ドルの損失を与えている。一方で、女の子への投資はケニア経済に潜在的に32億米ドルをもたらす（注 25）。

落とし穴に落ちさせない

成長する過程で、女の子はいくつもの潜在的な落とし穴に出くわす。以下の図は、今回の調査対象のどの女の子にも起こり得る、いいことと悪いことの両方を示している。

女の子は必要な保護と投資を家族、コミュニティ、国から受けて安全かつ活発な市民になるかもしれないし、ならないかもしれない。栄養不良や教育の欠如、幼いうちの妊娠やHIVやエイズといった落とし穴に落ちてしまうかもしれない。こうした落とし穴は女の子を貧困という罠に捕らわれたままにし、それが彼女の子どもたちにも受け継がれてしまう。だがこれは避けられない道ではない。こうした女の子たちに時間と手間、費用を投資することで、個人的・経済的変化を生むことは可能なのだ。



賢い取り組み

労働への女性参加がアメリカと同水準まで伸びた場合、マレーシアの GDP（国内総生産）は 2.88%、成長率は 0.77% 増加する。インドネシアの GDP は 1.38%、成長率は 0.56% の伸びとなる（注 26）。

インドの労働人口の男女比がほんの 10% だけ女性寄りに変われば、同国の GDP は 8% 増加する（注 27）。

タンザニアでの女性起業家に対する壁が取り除かれれば、同国の経済成長率は 1% 増加する（注 28）。

中東と北アフリカにおいて 1990 年代に女性の労働人口への参加率が教育を受ける割合と同程度の増加を果たしていたなら、今頃、平均的な家庭の収入は 25% 増加していたはずだ（注 29）。

若い女性をもっと簡単に農地や肥料、信用貸付、農業訓練を利用できていれば、さらに多くの食料がより多くの人々に行き渡り、子どもの栄養状態は改善していただろう。女性が男性と同等の教育や経験、農業関連資源を手に入れられれば、一部の作物に関しては生産量が 22% 増加する（注 30）。

より多くの若い女性が経済活動に参加すれば、まだ幼いうちに結婚する女の子の数は減少する。雇用は若い女性が結婚を遅らせて、人生のより遅い時期に出産を計画するきっかけとなるのだ（注 31）。女性の早婚が減少し、産む子どもの数が少なくなることで経済的な変化が生まれる。一人当たりの国民所得は増加し、貯蓄額は増え、成長は加速する（注 32）。若い女性が信用貸付をもっと利用しやすくなれば、より多くの子どもたちが学校へ行き、家庭の収入は増える。マイクロクレジット機関からの女性の借入は、男性の借入よりも子どもの就学率に強い影響力を持つ（注 33）。バングラデシュでは、5 年以上の信用貸付を受けた若い女性は、家庭当たりの年間支出を 9 米ドル増加させた（注 34）。

「思春期の女の子に投資することは、まさしく貧困国が何世代にもわたる貧困に打ち勝ち、より良い所得の分配を目指す上での触媒となる。彼女たちへの投資は公正だけでなく、賢い経済的判断なのだ」

ロバート・B・ゼーリック、世界銀行総裁

プランからの行動への呼びかけ

「私たちは、『危機こそチャンス』ということを言い続けています。今、危機に対して私たちが取っている政策はチャンスをもたらします。思春期の女の子の問題に取り組み、彼女たちが教育の機会を失わないようにする好機なのです」

マリ・パンゲストゥ、インドネシア商業相

マリ・パングストゥや他の多くの人々が言うように、現在の世界的経済危機は、貧困への取り組みを優先させ、国際的なコミットメントの順守を確かにする機会をもたらす。今こそ、女の子と若い女性への投資が優先される新たな道筋をしっかりと備えるときである。世界中の政府や企業、市民社会、そして女の子と若い女性の家族が、世界憲章に述べられた政策と慣習の変化に向けて尽力し、行動を起こし、投資するときなのだ。

「この白書は、開発途上世界の女の子に投資することの重要性を証明するものだ。しかしそれだけではない。これは行動への呼びかけでもあり、我々一人ひとりがそれぞれの役割を果たすよう求めている。この困難な経済状況において、女性への投資は賢い経済活動である。女の子への投資はいつそう賢い経済活動である。なぜなら、女の子への投資こそ、開発の中心にあるからだ」

ヌゴジ・オコンジョ＝イウェアラ 世界銀行専務理事

女の子への投資の世界憲章——10の行動計画

1. 世界的ジェンダー平等目標と国際的コミットメントに妥協をしない
2. ジェンダー平等の原則が全国および地域の経済政策に完全に取り入れられるよう推進する
3. 女の子の教育を幼児期から思春期以降にいたるまで、優先事項とする
4. 国家の社会保障プログラムを維持し、社会事業を保護する
5. 若い女性の雇用機会への投資を増強する
6. 若い女性労働者を支援し、労働に見合った賃金と労働環境を保障する
7. 若い女性のリーダーシップに投資する
8. 女の子と若い女性が平等に土地と資産の所有権を得られるようにする
9. 全国的・国際的データ分析を通じて、女の子と若い女性の仕事を重視する
10. 働く女の子と若い女性に対する実際的な世界的指針を策定・推進する

(脚注)

1 近刊予定の報告書「How Many More Infants are Likely to Die in Africa as a Result of the Global Financial Crisis? (世界金融危機のためにあと何人の乳児がアフリカで死ぬのか?)」より、Jed Friedman, Norbert Schady、世界銀行調査研究部、2009年9月発行予定。

2 プラン・イギリス(2009年)、「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009年——女の子と世界経済」、10ページ、ロンドン、プラン・UK。

3 プラン・UK(2009年)、「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009年——女の子と世界経済」、27ページ、ロンドン、プラン・UK。

- 4 国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP) (2007年)、「Economic and Social Survey of Asia and the Pacific (アジア太平洋の経済および社会調査)」、インターネット (アクセス日 2009年8月4日)。
- 5 国連女性開発基金(UNIFEM) (2005年)、「Progress of the World' s Women: Women, Work and Poverty (世界の女性の進捗——女性、仕事、貧困)」、9ページ。ニューヨーク、UNIFEM。
- 6 プラン・UK (2009年)、「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009年——女の子と世界経済」、30ページ、ロンドン、プラン・UK。
- 7 国連人口基金(UNFPA) (2006年)、「世界人口白書 希望への道——女性と国際人口移動」インターネット、www.unfpa.org/public/cache/offonce/publications/pid/379 (アクセス日 2009年8月4日)。
- 8 世界銀行 (2009年)、「海外移住と開発 概要 10——Outlook for Remittance Flows 2009-2011: Remittances expected to fall by 7-10 per cent in 2009 (2009年~2011年の送金見通し——2009年には送金額が7~10%減少の見込み)」インターネット、www.worldbank.org (アクセス日 2009年8月4日)
- 9 フィリピン労働雇用省海外雇用庁(POEA) (2007年)、「Overseas Employment Statistics. Mandaluyong City (国外雇用統計、マンダルヨン市)」、POEAインターネット、www.poea.gov.ph/html/statistics.html (アクセス日 2009年8月4日)
- 10 IRIN (2008年)、フィリピン、「Contingency plan for army of migrants (移民の大群に備える緊急時対応策)」、プレスリリース、2008年10月22日、インターネット、www.irinnews.org/Report.aspx?ReportId=81050 (アクセス日 2009年8月4日)
- 11 同。
- 12 国際労働機関(ILO) (2009年)、「Give Girls a Chance - Tackling Child Labour (少女たちにチャンスをと：児童労働への取り組みは未来への鍵)」、2ページ、インターネット、www.ilo.org/ipec/Campaignandadvocacy/ (アクセス日 2009年8月4日)。
- 13 国際労働機関(ILO) (2004年)、「Helping hands or shackled lives: Understanding domestic labour and responses to it (お手伝いか拘束された生活か？ 子どもの家事労働とその対応を理解するための書)」インターネット、www.ilo.org/global/What_we_do/Publications/ (アクセス日 2009年8月4日)。
- 14 国際労働機関(ILO) (2008年)、第301回理事会、2008年3月6~20日、GB.301/2インターネット、www.ilo.org/global/What_we_do/Officialmeetings/ (アクセス日 2009年8月4日)。
- 15 Kabeer, N. (2003年)、「Gender Mainstreaming in Poverty Eradication and the Millennium Development Goals. A handbook for policy-makers and other stakeholders (貧困撲滅とミレニアム開発目標のためのジェンダー・メインストリーミング——政策決定者とその他のステークホルダーのための手引き)」、オタワ、英連邦本部。
- 16 プラン・UK (2009年)、「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009年」、30ページ、ロンドン、プラン・イギリス。
- 17 同、31ページ
- 18 同、117ページ
- 19 同、117ページ

20 同、117 ページ

21 プラン・UK (2009 年)、「Because I am a Girl 世界ガールズ白書 2009 年」、11 ページ、ロンドン、プラン・UK。

22 同、10 ページ。

23 Moore, W. (2002 年)、「Call Centres Under Pressure, Channel 4 (コールセンターにかかる圧力、チャンネル4)」、インターネット、

www.channel4.com/health/microsites/0-9/4health/stress/saw_callcenter.html (アクセス日 2009 年 8 月 4 日)。

24 ナイキ財団 (2009 年)、「The Girl Effect: Not Just about Girls: Engaging Men and Boys is Key to Girls' Ability to Achieve their Full Potential (女の子効果——女の子だけの話ではない——女の子が能力を十分に発揮するためには男性と男の子の取り組みが鍵となる)」、インターネット、www.nikefoundation.com/media_room.html (アクセス日 2009 年 5 月 19 日)。

25 同。

26 国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) (2007 年)、「アジア太平洋経済社会調査」インターネット、(アクセス日 2009 年 8 月 4 日)。

27 Esteve-Wolart, B. (2004 年)、「Gender Discrimination and Growth: Theory and Evidence from India (ジェンダー差別と成長——インドにおける理論と証明)」、インターネット、ロンドン、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、

www.sticerd.lse.ac.uk/dps/de/dedps42.pdf (アクセス日 2009 年 5 月 14 日)。

28 国際金融公社(IFC)、世界銀行グループ(2007 年)、「Tanzania Gender and Economic Growth Assessment (タンザニアのジェンダーと経済成長評価)」、ワシントン D.C.、IFC。DFID (2008 年)、「ジェンダー・マニユアル」も参照のこと。

29 Klasen, S., Lamanna, F. (2003 年)、「The Impact of Gender Equality in Education and Employment on Economic Growth in the Middle East and North Africa (中東および北アフリカの経済成長において教育と雇用の場でのジェンダー平等がもたらす影響)」、ミュンヘン、世界銀行。

30 「国際食糧政策研究所が実施した調査によると、男性と女性が意思決定において同等の影響力を持っていた場合、サハラ以南のアフリカでは今より 1,700 万人多くの子どもたちが十分に栄養を与えられる」ILO (2009 年)、「Global Employment Trends for Women (女性の世界的雇用傾向)」、15 ページ、インターネット、ジュネーヴ、ILO、www.ilo.org/global/What_we_do/Publications/ (アクセス日 2009 年 5 月 14 日)。UNICEF (2006 年)、「世界子供白書 2007——女性と子ども——ジェンダーの平等が、もたらす二重の恩恵」インターネット、ニューヨーク、UNICEF、www.unicef.org/sowc07/docs/sowc07.pdf (アクセス日 2009 年 5 月 15 日) も参照のこと。

31 思春期の女の子構想 (2009 年)、「The Adolescent Girls Initiative: An Alliance for Economic Empowerment (思春期の女の子構想——経済的エンパワーメントに向けた同盟)」インターネット、世界銀行、<http://go.worldbank.org/I5PX4JETM0> (アクセス日 2009 年 5 月 14 日)。Mathur, S 他 (2003 年)、「Too Young to Wed: The Lives, Rights, and Health of Young Married Girls (若すぎる結婚——若くして結

婚した女の子たちの人生、権利、健康)」インターネット、ワシントン D.C.、女性のための国際研究機関 (ICRW)、www.icrw.org/docs/tooyoungtowed_1003.pdf (アクセス日 2009 年 5 月 15 日) も参照のこと。

32 Levin, R 他 (2008 年)、「Girls Count: A Global Investment and Action Agenda (女の子は重要である——世界的な投資と行動のアジェンダ)」インターネット、ワシントン D.C.、Centre for Global Development/Population Council (世界開発・人口評議会)、www.icrw.org/docs/Girls_Count_a_Global_Investment_&_Action_Agenda.pdf (アクセス日 2009 年 5 月 15 日)。

33 Buvinic, M. 他 (2008 年)、「Equality for Women: Where do we stand on Millennium Development Goal 3?(女性のための平等——ミレニアム開発目標 3 に対して現在我々はどこにいるのか)」、ワシントン D.C.、世界銀行、7. 引用: Pitt, M. 他 (2003 年)、「Policy Research Working Paper: Does Micro-credit Empower Women: Evidence from Bangladesh (政策研究調査結果報告書——マイクロクレジットは女性に力を与えるのか——バングラデシュの検証 1998)」インターネット、<http://goqa.worldbank.org/NYPPLT3CM0> (アクセス日 2009 年 8 月 4 日)。

34 思春期の女の子構想 (2009 年)、「The Adolescent Girls Initiative: An Alliance for Economic Empowerment (思春期の女の子構想——経済的エンパワーメントに向けた同盟)」2 ページ、ワシントン D.C.、世界銀行、インターネット、<http://go.worldbank.org/I5PX4JETM0> (アクセス日 2009 年 5 月 14 日)。

